



動物レスキュー通信

2020年12月 第91号 (令和2年12月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

犬猫の食事・フード

いろいろなタイプ



近年、ペットフードの開発が進み、私たちの目から見てもとても美味しそうなものや、ワンちゃん、ネコちゃんが好んで食べてくれるようなフードなど、バリエーションも豊富で様々な種類のものが手軽に買えるようになりました。また、飼い主さんが食べるものと同じ素材を使って手作り食にチャレンジする方も増えていきます。しかし人とワンちゃん、ネコちゃんでは必要とする栄養に違いがあるのは当然の事。より安全・安心に食事を与えてあげられるように、フードに関する知識を身に付けておきましょう。

必要な栄養は？

ワンちゃんもネコちゃんも人間と同じ哺乳水ですから、必要な栄養素は同じ5大栄養素、そして水。5大栄養素とは糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルです。それなら知っているから大丈夫だと思われそうですが、注意が必要なのはその栄養素の要求量の違いです。特にタンパク質は、ワンちゃんは人の約1.9倍、ネコちゃんは約2.4倍必要とされています。食塩は人の10分の1で良いとされていますので、飼い主さんが食べるものと同じ塩分の多いものを与えてしまうと腎臓に負担をかけることになってしまいます。そしてワンちゃんにキャットフー

ド、ネコちゃんにドックフードを与えることも禁物です。ではワンちゃん、ネコちゃんにはどのような食事を与えてあげればいいのでしょうか？ 市販のペットフードには様々な種類がありますがペットフード安全法で定められた表示が必ずあります。その表示に犬用・猫用の表示はもちろんです。「総合栄養食」「間食」「療法食」「その他の目的食」のいずれかの表示があります。総合栄養食とはワンちゃん、ネコちゃんに必要な栄養バランスが整えられたペットフードの事を指します。ですから体重あたり1日に必要な量がフードによって違いますので、その表示に従って与えれば栄養面で不足するなどの心配はありません。ワンちゃん、ネコちゃんの年齢によっても必要な栄養量は変化します。で、年齢別に分かれているフードを活用すると簡単に栄養管理をすることができず。間食とは人間でいうおやつ。嗜好性が高くしつけの際の「褒美」に与えたりします。ジャーキーやボーロ、煮干しやチーズ、クッキー、ネコちゃんに今大人気の「CIAOちゅ〜る」なんかも間食ですね。療法食とは基本的には獣医さんの指示のもとに与えるフードで、特定の疾病別に使用している食材や栄養バランスが異なるフードの事です。そのほかの目的食とは嗜好性が高く、食欲増進などを目的としたフードで総合栄養食に振りかけて食べさせるなどの「副食」と言われるも

のや栄養を補うために飲ませる錠剤やゼリー状のサプリメントなどです。これらの栄養の違いの他に、フードに含まれる水分によって4タイプ(ウェットフード、セミモイストフード、ソフトドライフード、ドライフード)に分類されています。「ウェットフード」水分量が75%程度のもので、水分が多いため開封後の長期保存には向いていません。その為、少量ずつ小分けにされているものが多く、コストパフォーマンスは良くありませんが、水を飲みたがらないネコちゃん等にも食事から水分を取ることができるので便利です。「ソフトドライフード」水分量が25%~35%程度のものです。半生タイプと呼ばれるもので、常温保存が可能で、ウェットフードよりも長期保存ができます。製造時に発泡処理が行われます。「セミモイストフード」ソフトドライフードと同じく水分量が25%~35%程度のものです。細かく砕いた原材料を機械で形成して作ります。水分量が少ないため、長期保存が可能です。「ソフトパフォーマンス」が良いのが特徴です。「セミモイストフード」水分量が25%~35%程度です。これらのように分類されていますので、ワンちゃん、ネコちゃんの年齢、体重、嗜好等に合わせ、与えるタイミングなども考えたいので栄養が足りなくなるようなことがないように、必要な栄養がきちんと取れるようにフードを選んで与えるようにしてあげてください。また、間食などはしつけのご褒美などに必要なものですが、欲しがるからと言って与えすぎには注意して下さい。肥満や病気の原因になってしまふ可能性があります。

人も動物も栄養管理は健康に直結します。病気になりにくい身体を目指してあげて下さい。(詩月)